

北海道訪問を終えて

西川由紀子

2018年9月23日、24日に、札幌を訪ねました。北海道保問研の川田学さん主宰の2歳児についてのシンポジウムに興味があつて、もともと予定していた出張でした。

24日に、光星はとぼっぼ保育園の柴野さんに時間をとっていただいて、地震とその後の様子をおうかがいました。

今回、一番驚いたのは、北海道中が停電したということでしたが、その被害が具体的に分かりました。みなさんも気づいておられたことと思いますが、電気がないと、電話がつながらなくなります。携帯電話もちろん、電気がなくなっていくます。柴野さんは、当日の朝、信号のない道路を車で走って出勤されたそうです。到着すると、電気で施錠された門が開かず、裏口の鍵は園のなかという非常事態で、地域の方に手伝ってもらって、時間をかけて園内に入れたのだそうです。お風呂も、キッチンもすべて電気を必要とするように変わってきています。今回の停電は、寒い時期なのでよかつたけれど、これがもう少し寒くなっていたら、たいへんなことになっていたと思うとのことでした。

停電から解放されたのが、地震の翌日7日の夜。その時点で、震源地に近いこども園から、SNSを通じて、保育ボランティアの要請があり、それにこたえて、翌8日の土曜日、土曜休みの職員とともに、片道1時間半の早来に行かれたそうです。1歳、2歳の子どもたちのいる部屋でのボランティアだったそうですが、震災で疲れていたのか、はじめて出あうおとなと過ごす保育にもかかわらず、もりもりおにぎりを食べ、普段以上にぐっすり昼寝をしたそうです。

札幌も震災でたいへんななかの、ボランティアに驚いたとお伝えしたら、「それは保問研のみなさんのことを聞いていたからですよ」と笑って答えてくださいました。ただ、余震の続くなかだったので、今後はボランティア保険のことなども、保問研でも調べる必要があると話していました。

北海道保問研の会員がおられる保育園は、台風の災害も含めてのいろんな被害はたくさんあつたが、上述のような、深刻な被害はなかつたとのことでした。

そこで今回の保問研からの支援金は、震源地にもっとも近い苫小牧保問研が中心となつて、北海道保問研集会の時につながつた近隣の町村を支援していくことにしてくださいました。